

(仮訳)

プレス・リリース

2021年11月9日

バーゼル銀行監督委員会は、気候関連金融リスクへの対応、暗号資産のプルデンシャルな取扱いの明確化、G-SIB 評価手法のレビューに関する作業を進めている

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、気候関連金融リスクの実効的な管理と監督のための諸原則に関する市中協議の実施に合意。
- 暗号資産エクスポージャーに係る市中協議へのフィードバックについて検討。保守的なリスクベースのアプローチの重要性を再確認し、次のステップに合意。
- G-SIB 評価手法のレビュープロセスの改訂を最終化し、レビューすべき追加的な課題の範囲について合意。

バーゼル委は、本日、気候関連金融リスク、暗号資産、G-SIB 評価手法、及び開示基準に関する取組みのアップデートを公表した。これは、グローバルな銀行システムにおけるリスクと脆弱性のほか、政策上及び監督上の取組みについて議論した、10月21日、11月5日及び8日のバーゼル委会合に基づくものである。

気候関連金融リスク

バーゼル委は、本年前半に公表した一連の分析報告書に続き、現在、グローバルな銀行システムにおける気候関連金融リスクに対処するための一連の取りうる措置（開示、監督及び規制）を評価・検討している。

そのために、バーゼル委は、国際的に活動する銀行における気候関連金融リスクの実効的な管理と監督のための諸原則について、今月後半の市中協議の実施に合意した。

開示措置に関して、バーゼル委は、国際サステナビリティ基準審議会の設立を歓迎し、また、気候関連金融リスクに関する共通の開示基準を促進するために、第3の柱の枠組みの利用を検討している。バーゼル委は、取りうる規制措置の優劣を引き続き検討することについても合意した。

暗号資産

バーゼル委は、銀行の暗号資産エクスポージャーに係るプルデンシャルな取扱いに関する市中協議について、受領したコメントを検討した。バーゼル委メンバーは、銀行システムに対する暗号資産の潜在的リスクを緩和するために、市中協議文書に規定された一般原則と統合的な形で、保守的なリスクベースの国際的な最低基準を策定することの重要性を再確認した。バーゼル委は、2022年半ばまでに追加的な市中協議文書を策定することを視野に入れつつ、提案されたプルデンシャルな取扱いをさらに明確化する。

G-SIB 評価手法

バーゼル委は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）の評価手法のレビュープロセスの技術的改訂に関する、本年前半に実施された市中協議へのフィードバックについて議論した。バーゼル委は、評価手法が長期にわたって適切であることを確実にするために、既存の3年間のレビューサイクルを継続的なモニタリング及びレビューのプロセスに置き換えるアプローチを進めることに合意した。バーゼル委は、短期的には、G-SIB 評価手法に対する欧州銀行同盟に関連する展開の含意をレビューする。特に、これには、G-SIB 評価手法における銀行同盟内の国境を越えたエクスポージャーの取扱いに対象を絞ったレビューが含まれる。

開示基準

バーゼル委は、修正されたマーケット・リスクの枠組み及び銀行のソブリン・エクスポージャーの一連の任意開示に関連する、第3の柱の開示の最終基準を承認した。これは、これらの基準に関するバーゼル委の2019年の市中協議に続くものである。最終的な開示基準は数週間後に公表される予定である。

グローバルな銀行システムに対するリスクと脆弱性

バーゼル委は、銀行の収益性、ビジネスモデル及びリスクテイク行動に対する、長期化する低金利環境の影響と見通しの変化について議論した。テーマ別に深掘りした分析では、金利動向と銀行の対応の背後にある循環的・構造的要因、銀行システム間の異質性の程度、及び主な監督上の課題とリスクを調査した。バーゼル委では、こうした問題について引き続き検証していく。

バーゼル委メンバーは、サードパーティー、フォースパーティーのサービス提供者への依存も含め、銀行のオペレーショナル・レジリエンスについても状況把握を行った。

バーゼル委は、他の基準設定主体及び国際的なフォーラムと連携しつつ、サードパーティー、フォースパーティーリスク管理及び集中リスクに関連する、監督上及び政策上の含意を引き続き評価する。